

(7) 調査対象種以外の特筆すべき種(植物)

本調査では、調査対象種以外の特筆すべき植物として、コムラサキおよびノカンゾウの2種を確認した。

[1] コムラサキ

コムラサキの生態情報等を表3-22に、確認位置を図3-16に示す。

9月22日のサデクサ調査時に3地点で確認した。

地点Aはヨシ、ヤマアワ、セイタカアワダチソウに囲まれた生育環境で3個体を確認した。確認地点は樹園地に近く、植栽残存の可能性が高いと考えられる。

地点Bは水路脇で3個体を確認した。確認地点は放棄耕作地であり、植栽残存の可能性が高いと考えられる。

地点Cはセイタカアワダチソウやツルマメ等に覆われた旧耕作地の畦にイヌツグと共に一列に並んだ2個体を確認した。確認地点は放棄耕作地であり、植栽残存の可能性が高いと考えられる。

なお、確認した8個体は全て結実していた。

表3-22 特筆すべき種の生態および確認状況 (植物：コムラサキ)

コムラサキ	クマツヅラ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	近畿版 RDB	C	三重県 RDB2005	VU
生態	本州・四国・九州・沖縄に分布し、三重県内では広い範囲に点々と分布する。初夏に薄紫色の花を咲かせ、秋に垂れた枝に紫色の小球形の果実を多数付ける落葉低木。ムラサキシキブより全体に小形。								
確認状況	計画地およびその周辺の3地点で計8個体を確認した。								
									
コムラサキ生育状況									
平成22年9月22日撮影									

## [2] ノカンゾウ

ノカンゾウの生態情報等を表 3-23に、確認位置を図 3-16に示す。

9月22日のサデクサ調査時に1地点で計9個体確認した。

チガヤ、セイタカアワダチソウ、イシミカワ、ヤブガラシ等に覆われた車道とヨシ原の境界に列を成して生育していた。隣接してダンドク(カンナ)の植栽があり、生育地は放棄耕作地であり、植栽残存の可能性が高いと考えられる。

表3-23 特筆すべき種の生態および確認状況(植物:ノカンゾウ)

ノカンゾウ	ユリ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	近畿版 RDB	-	三重県 RDB2005	NT
生態	本州・四国・九州・南西諸島に分布し、三重県内ではいなべ市・四日市市・津市・松阪市等で記録されている。溝の縁・池畔・棚田の縁等地下水位の高いところに生える多年草。草原としてはやや湿性の場所を好み、湿原のほitoriなどにも生育する。7月～9月に橙赤色の花を咲かせる。								
確認状況	計画地周辺で9個体確認した。								
									
ノカンゾウの生育状況									
平成22年9月22日撮影									

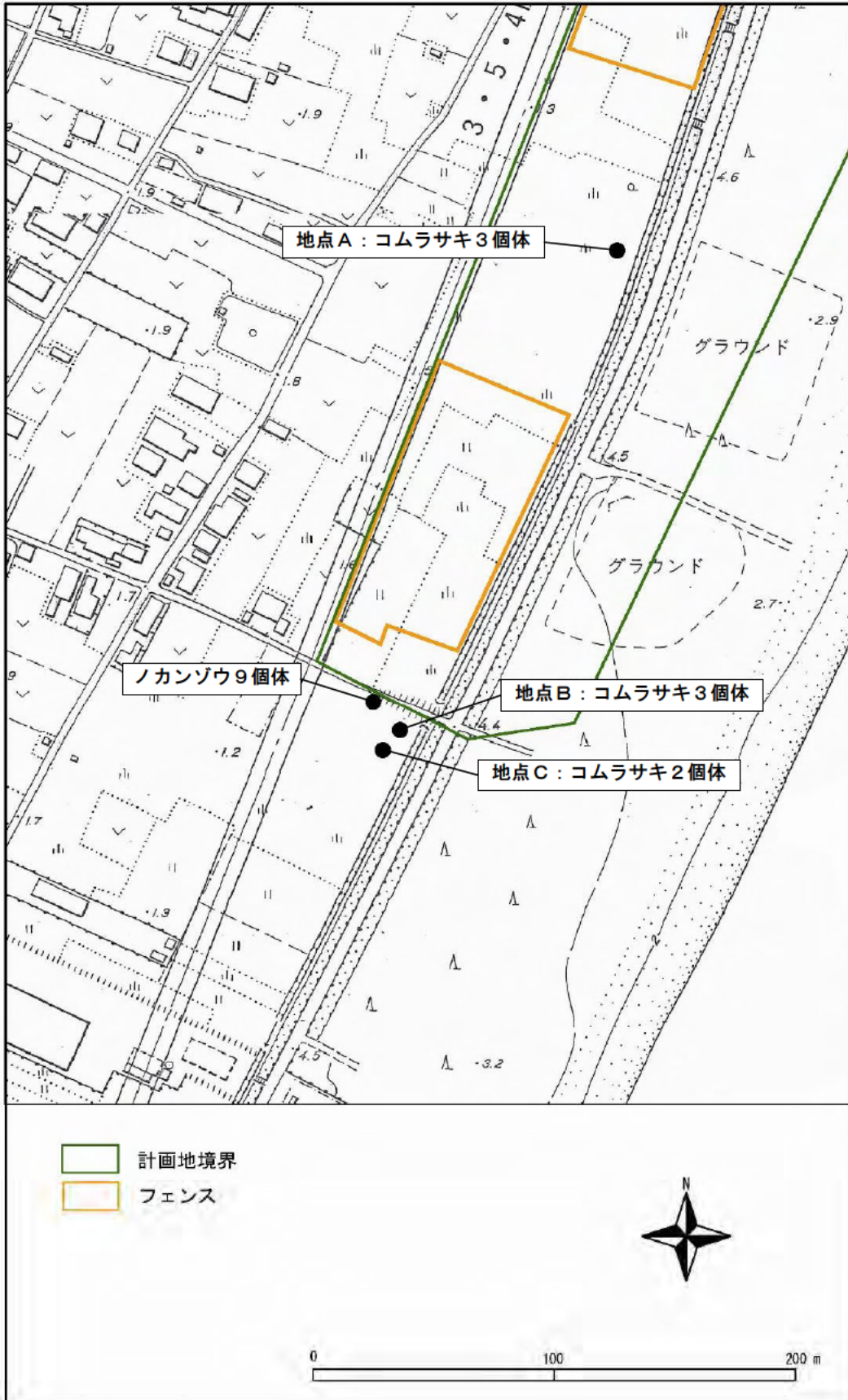


図3-16 調査対象種以外の特筆すべき植物確認地点

## 3.2 特筆すべき動物

### 3.2.1 鳥類

#### 1) 調査対象種および調査時期

調査対象種および調査時期を表 3-24 に示す。

表3-24 調査対象種および調査時期

種名	調査回数	調査時期	調査の目的
コチドリ シロチドリ コアジサシ	4回	平成 22 年 4 月 28 日 平成 22 年 5 月 18 日 平成 22 年 6 月 17 日 平成 22 年 7 月 8 日	・繁殖期における生息状況の把握
オオヨシキリ	4回	平成 22 年 5 月 18 日 平成 22 年 6 月 17 日 平成 22 年 7 月 8 日 平成 22 年 8 月 3 日	・繁殖期における生息状況の把握 ・渡り期における生息状況の把握 ・営巣環境の把握
ミユビシギ キアシシギ イソシギ キョウジョシギ トウネン ハマシギ チュウシャクシギ	3回	平成 22 年 4 月 28 日 平成 22 年 9 月 7 日 平成 23 年 1 月 11 日	・渡り期における生息状況の把握 ・越冬期における生息状況の把握

#### 2) 調査範囲

調査範囲は、図 3-17 に示す計画地およびその周辺の範囲（調査地域）とした。

#### 3) 調査方法

調査対象種毎の調査方法は以下のとおりである。また、調査時に確認された対象種以外の種についてもあわせて記録した。

##### (1) コチドリ、シロチドリ、コアジサシ

調査対象地域のうち海上を飛翔する個体を含め、計画地東側の海岸線を中心に生息確認調査を実施した。確認された場合は、行動（繁殖行動・採餌・休息等）、確認地点、確認個体数、確認状況（環境等）を記録し、代表的な確認環境について写真撮影を行うほか、個体の写真についても可能な限り撮影を行うこととした。

繁殖が確認された場合は、観察のできる地点に定点を設置した上で、繁殖行動、確認地点、確認個体数、確認状況（環境等）を記録し、営巣状況について写真撮影を行うほか、繁殖の有無、巣立ったヒナの数等についても可能な限り記録した。

(2) ミユビシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、チュウシャクシギ

調査対象地域のうち海上を飛翔する個体を含め、計画地東側の海岸線を中心に生息確認調査を実施した。確認された場合は、行動（採餌・休息等）、確認地点、確認個体数、確認状況（環境等）を記録し、代表的な確認環境について写真撮影を行うほか、個体の写真についても可能な限り撮影を行った。

(3) オオヨシキリ

調査地域で生息が確認された場合、オオヨシキリの飛翔や行動が観察できる地点に定点を設置した上で、繁殖の有無について調査し、繁殖行動、確認地点、確認個体数、確認状況（環境等）を記録し、写真撮影を行った。

繁殖が確認された場合は、繁殖の有無、巣立ったヒナの数等についても可能な限り記録するものとした。また、本種の繁殖後に繁殖を行う可能性が高いと考えられた箇所を中心に1m<sup>2</sup>あたりのヨシの密度や、水深とヨシの生育の関係等について調査を行った。また、過年度の調査結果を比較し、周辺環境の変化等について考察した。

なお、オオヨシキリについては、調査範囲に加え、平成18年度に追加して実施された調査地（河芸漁港の西側のヨシ原）についても同様の調査を実施した。

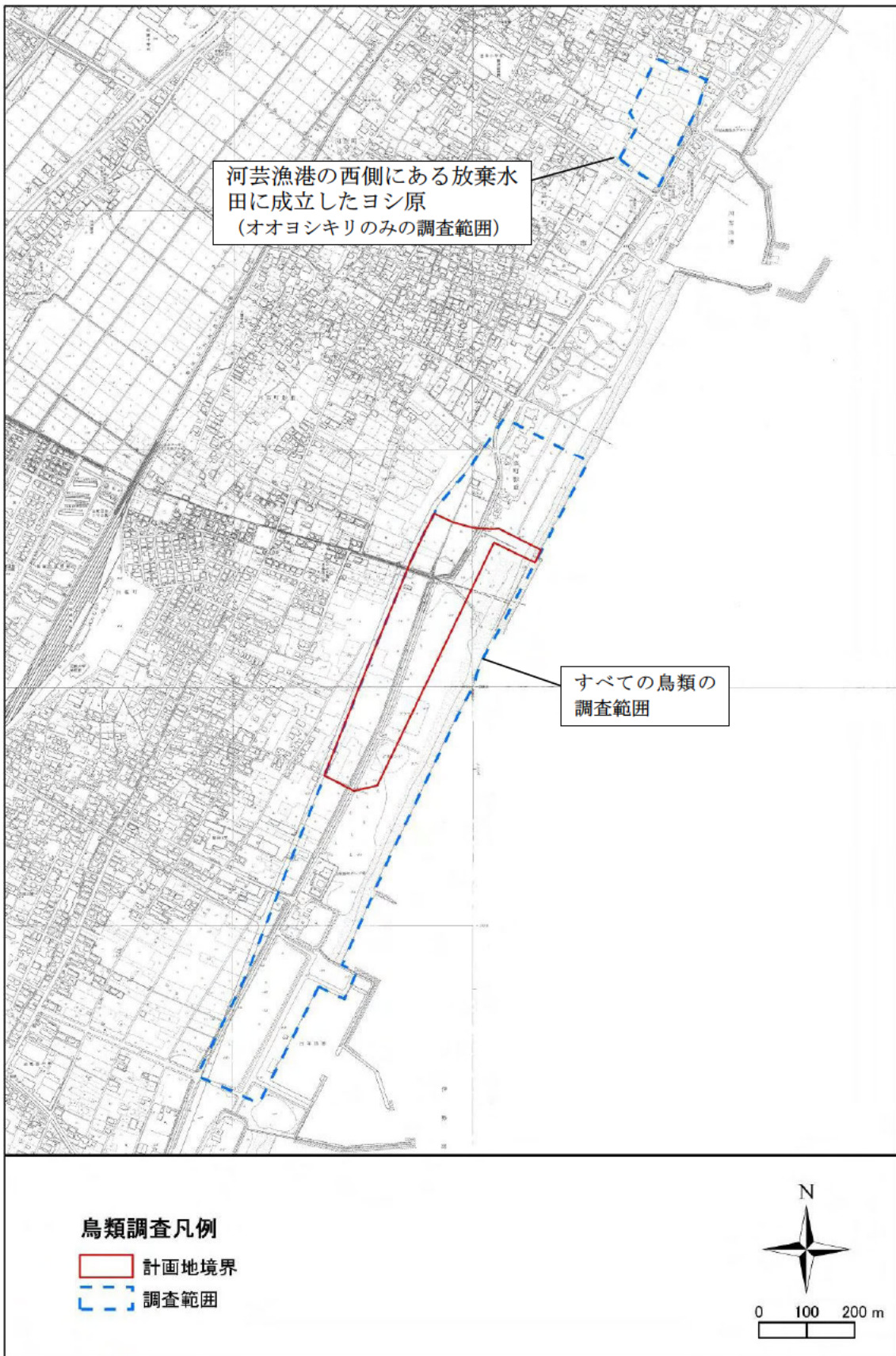


図3-17 鳥類調査範囲

#### 4) 調査結果

本調査において確認した特筆すべき種（鳥類）の一覧を表 3-25 に、確認された鳥類の一覧を表 3-26 に示す。

本調査では 10 目 25 科 52 種の鳥類を確認した。このうち、特筆すべき種は本調査の調査対象であるシロチドリ、キョウジョシギ、ミユビシギ、キアシシギ、イソシギ、ハマシギ、コアジサシ、オオヨシキリの 8 種のほか、調査対象種以外の特筆すべき種として、カンムリカイツブリ、ホオジロガモ、ウミアイサ、ミサゴ、ヒクイナ、アオアシシギ、ウミネコの 7 種を確認した。

なお、調査対象種であるコチドリ、トウネン、チュウシャクシギは確認されなかった。

表3-25 本調査で確認した特筆すべき鳥類種

目名	科名	種名	渡り区分	平成22年度												天然記念物	種の保存法	環境省 RL2006	三重RDB 2005	近畿版 RDB
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ	冬鳥															R3(繁殖)	
2	カモ目	カモ科	ホオジロガモ	冬鳥															R3(越冬)	
3			ウミアイサ	冬鳥															R3(越冬)	
4	タカ目	ハヤブサ科	ミサゴ	留鳥												NT	EN(繁殖) VU(越冬)	R2(繁殖)		
5	ツル目	クイナ科	ヒクイナ	夏鳥												VU	VU	R2(繁殖)		
6	チドリ目	チドリ科	シロチドリ	留鳥													EN(繁殖) NT(越冬)	R3(繁殖)		
7		シギ科	キョウジョシギ	旅鳥															R3(通過)	
8			ハマシギ	冬鳥															R3(越冬)	
9			ミユビシギ	冬鳥													NT	R2(通過)		
10			アオアシシギ	旅鳥															R3(通過)	
11			キアシシギ	旅鳥															R3(通過)	
12			イソシギ	留鳥															R2(繁殖)	
13		カモメ科	ウミネコ	留鳥															要注目種 (繁殖)	
14			コアジサシ	夏鳥												VU	EN	R2(繁殖)		
15	スズメ目	ウグイス科	オオヨシキリ	夏鳥													NT	R3(繁殖)		
	6 目	8 科	15 種		5種	6種	3種	3種	4種	2種	6種	0種	1種	3種	6種	15種				

注 1：渡りの区分は、「三重県における鳥類分布・生息に関する調査報告書（農林水産部林業事務局緑化推進課，1987 年 3 月）」および「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発（京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著，2002 年）」を参考にした。

- 留鳥：一年中見ることのできる種
- 夏鳥：繁殖のために渡来する種
- 冬鳥：越冬のために渡来する種
- 旅鳥：春秋の渡り期に定期的に渡来する種
- 外来種：人為により外国から移入された種

注 2：特筆すべき種の選定基準は下記のとおりである。

天然記念物：「文化財保護法」（1950 年 5 月公布・同 8 月施行）により地域を定めずに天然記念物に選定されている種および亜種を示す。

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992 年 6 月公布・1993 年 4 月施行）において希少野生動植物種に指定されている種および亜種を示す。  
：国内希少野生動植物種      ：国際希少野生動植物種

環境省 RL2006：「鳥類、爬虫類、両生類およびその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて（環境省 2006 年 12 月）」に記載されている種および亜種を示す。

VU：絶滅危惧 II 類。  
NT：準絶滅危惧。

三重県 RDB：「三重県版レッドデータブック 2005 動物」（三重県環境森林部自然環境室，2006）に記載されている種および亜種。（ ）内は指定対象個体群を示す。

EN：絶滅危惧 IB 類：IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。  
VU：絶滅危惧種 VU：絶滅の危機が増大している種。  
NT：準絶滅危惧種（Near Threatened）：存続基盤が脆弱な種。

近畿版 RDB：「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発（京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著，2002 年）」に記載されている種を示す。（ ）内は指定対象個体群を示す。

R2：ランク 2、絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。  
R3：ランク 3、準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。  
要注目種：何らかの攪乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

表3-26 本調査で確認した鳥類

	目名	科名	種名	渡り区分	平成22年度							
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	1月	
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ	冬鳥								
2	ペリカン目	ウ科	カワウ	留鳥								
3	コウノトリ目	サギ科	ダイサギ	留鳥								
4			コサギ	留鳥								
5			アオサギ	留鳥								
6	カモ目	カモ科	カルガモ	留鳥								
7			コガモ	冬鳥								
8			ヒドリガモ	冬鳥								
9			キンクロハジロ	冬鳥								
10			スズガモ	冬鳥								
11			ホオジロガモ	冬鳥								
12			ウミアイサ	冬鳥								
13	タカ目	タカ科	ミサゴ	留鳥								
14	キジ目	キジ科	キジ	留鳥								
15	ツル目	クイナ科	ヒクイナ	夏鳥								
16	チドリ目	チドリ科	ミヤコドリ	冬鳥								
17			シロチドリ	留鳥								
18			ケリ	留鳥								
19		シギ科	キョウジョシギ	旅鳥								
20			ハマシギ	冬鳥								
21			ミコビシギ	冬鳥								
22			アオアシシギ	旅鳥								
23			キアシシギ	旅鳥								
24			イソシギ	留鳥								
25			カモメ科	ユリカモメ	冬鳥							
26		セグロカモメ		冬鳥								
27		オオセグロカモメ		冬鳥								
28		カモメ		冬鳥								
29		ウミネコ		留鳥								
30		アジサシ		旅鳥								
31		コアジサシ		夏鳥								
32	ハト目	ハト科	ドバト	外来種								
33			キジバト	留鳥								
34	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	留鳥								
35		ツバメ科	ツバメ	夏鳥								
36		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥								
37			セグロセキレイ	留鳥								
38		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥								
39		モズ科	モズ	留鳥								
40		ツグミ科	ジョウビタキ	冬鳥								
41			ツグミ	冬鳥								
42		ウグイス科	ウグイス	留鳥								
43			オオヨシキリ	夏鳥								
44			セッカ	留鳥								
45		シジュウカラ科	シジュウカラ	留鳥								
46		メジロ科	メジロ	留鳥								
47		ホオジロ科	ホオジロ	留鳥								
48		アトリ科	カワラヒワ	留鳥								
49		ハタオノドリ科	スズメ	留鳥								
50		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥								
51		カラス科	ハシボソガラス	留鳥								
52	ハシブトガラス		留鳥									
	10 目	25 科	52 種	-	28種	22種	16種	18種	18種	17種	33種	

注：渡りの区分は、「三重県における鳥類分布・生息に関する調査報告書（農林水産部林業事務局緑化推進課，1987年3月）」および「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発（京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著,2002年）」を参考にした。

- 留鳥：一年中見ることのできる種
- 夏鳥：繁殖のために渡来する種
- 冬鳥：越冬のために渡来する種
- 旅鳥：春秋の渡り期に定期的に渡来する種
- 外来種：人為により外国から移入された種



(1) コチドリ

コチドリの生態情報等を表 3-27に示す。

コチドリは本年度の調査において、確認されなかった。

平成 21 年度には工事区域外の裸地（駐車場）で幼鳥 2 羽を連れているつがいが確認され、平成 20 年度には工事区域内で繁殖が確認されていた。

今年度は確認されなかったことから、調査範囲内では繁殖しなかったものと考えられる。

表3-27 特筆すべき種の生態および確認状況（コチドリ）

コチドリ	チドリ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	EN	近畿 RDB	R3 繁殖
生態	日本では北海道、本州、四国、九州等に主に夏鳥として飛来して繁殖する。三重県内では各地の中・下流の河原や海岸部で少数が繁殖している。河川周辺の砂礫地や干潟、砂浜、植生が疎らな立地で見られる。大規模に整地している工事現場等で、短期間放置されている荒れ地状の所でもみられる。砂泥地の表面から、昆虫の成虫・幼虫をくわえとる。繁殖期は 4～7 月、一夫一妻で繁殖する。								
確認 状況	本調査では確認されなかった。								

## (2) シロチドリ

シロチドリの生態情報等を表 3-28に、確認位置を図 3-18に示す。

シロチドリは4月28日に延べ8例15羽、5月18日に延べ4例7羽、6月17日に延べ4例7羽、7月8日に延べ3例3羽、1月11日に延べ3例3羽を確認した。

4月28日には砂浜で採餌や飛翔する7つがいを確認した。

5月18日には砂浜で採餌する2つがいを確認した。

6月17日には幼鳥1羽を連れたつがい、抱卵中のつがいを1つがい確認した。

6月29日の他調査時に抱卵中のつがいを2つがい確認した。

7月8日には砂浜で休息・採餌する2羽、上空を飛翔する1羽を確認した。繁殖に関わる行動は確認されなかった。

1月11日には砂浜で休息・採餌する3羽を確認した。繁殖に関わる行動は確認されなかった。

以上の結果から、平成22年度は少なくとも3つがいが繁殖しているものと考えられた。平成22度は平成21年度に比べ繁殖確認例が少なかった。4月～5月の長雨・低温による影響のため、繁殖の確認時期は6月と平成21年度よりも遅い傾向であった。

表3-28 特筆すべき種の生態および確認状況（シロチドリ）

シロチドリ	チドリ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	EN 繁殖 NT 越冬	近畿 RDB	R3 繁殖
生態	三重県内では海岸部を中心に広く分布している。海岸の砂浜、河口の干潟、大きい河川の広々とした砂洲等で繁殖し、渡り期や越冬地では海岸や河口の干潟、潟湖、湖沼、ため池、河川等の砂泥地でみられる。干潟や砂地を走って、鞘翅類や半翅類等の昆虫、クモ類、ハマトビムシ等の甲殻類、ミミズやゴカイ類、小型の貝類等を食べる。繁殖期は3～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は、砂地の漂流物の間や疎らな草の間等の浅い窪みに、木片、小石、貝殻片等を敷いて作る。1巣卵数は3個が多い。								
確認状況	4月28日に延べ15羽、5月18日に延べ7羽、6月17日に延べ7羽、7月8日に延べ3羽、1月11日に延べ3羽を確認した。								
									
シロチドリの卵		シロチドリ (左写真 卵の親)							
平成22年6月17日撮影									

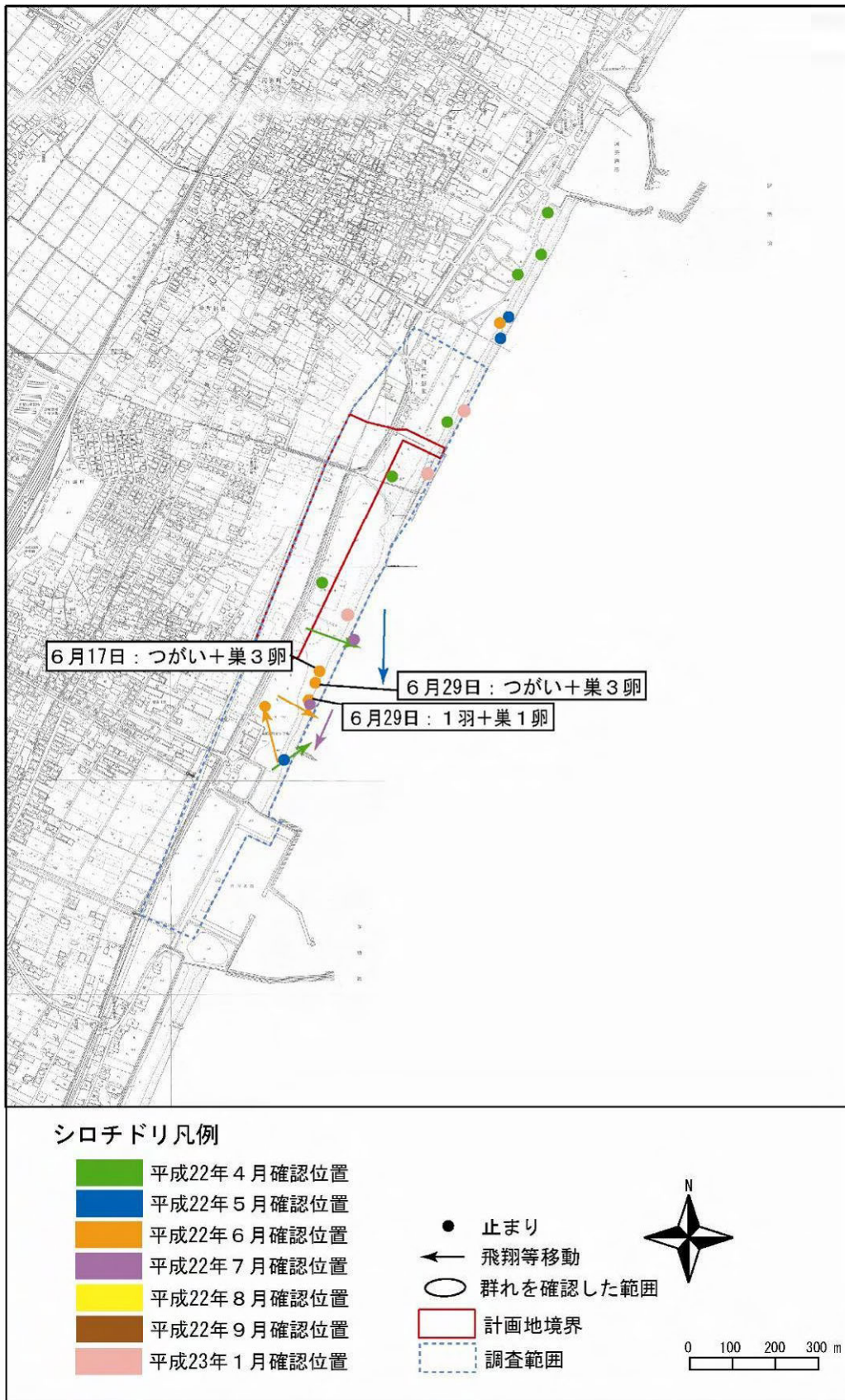


図3-18 シロチドリの確認位置


(3) コアジサシ

コアジサシの生態情報等を表 3-29に、確認位置を図 3-19に示す。

コアジサシは4月28日に海上を飛翔する延べ2例3羽、5月18日に海上を飛翔する1羽が確認された。

なお、繁殖行動は確認されなかった。

表3-29 特筆すべき種の生態および確認状況（コアジサシ）

コアジサシ	カモメ科	種の保存法	国際	環境省 RL	VU	三重県 RDB	EN	近畿 RDB	R2 繁殖
生態	日本には夏鳥として渡来し、本州以南で局地的に繁殖する。三重県では海岸を中心に確認されている。湖沼、河川、河口等の大きい水系のある河原、砂州、砂浜で見られる。水面上空を停空飛翔を交えて飛翔し、ダイビングして小魚を捕らえる。繁殖期は5～7月で、一夫一妻で繁殖する。捕食者が近づきにくい中州の砂地に産卵する。1巣卵数は1～4個で、3個が多い。								
確認状況	4月28日に延べ3羽、5月18日に1羽を確認した。								
									
コアジサシ									
平成22年4月28日撮影									

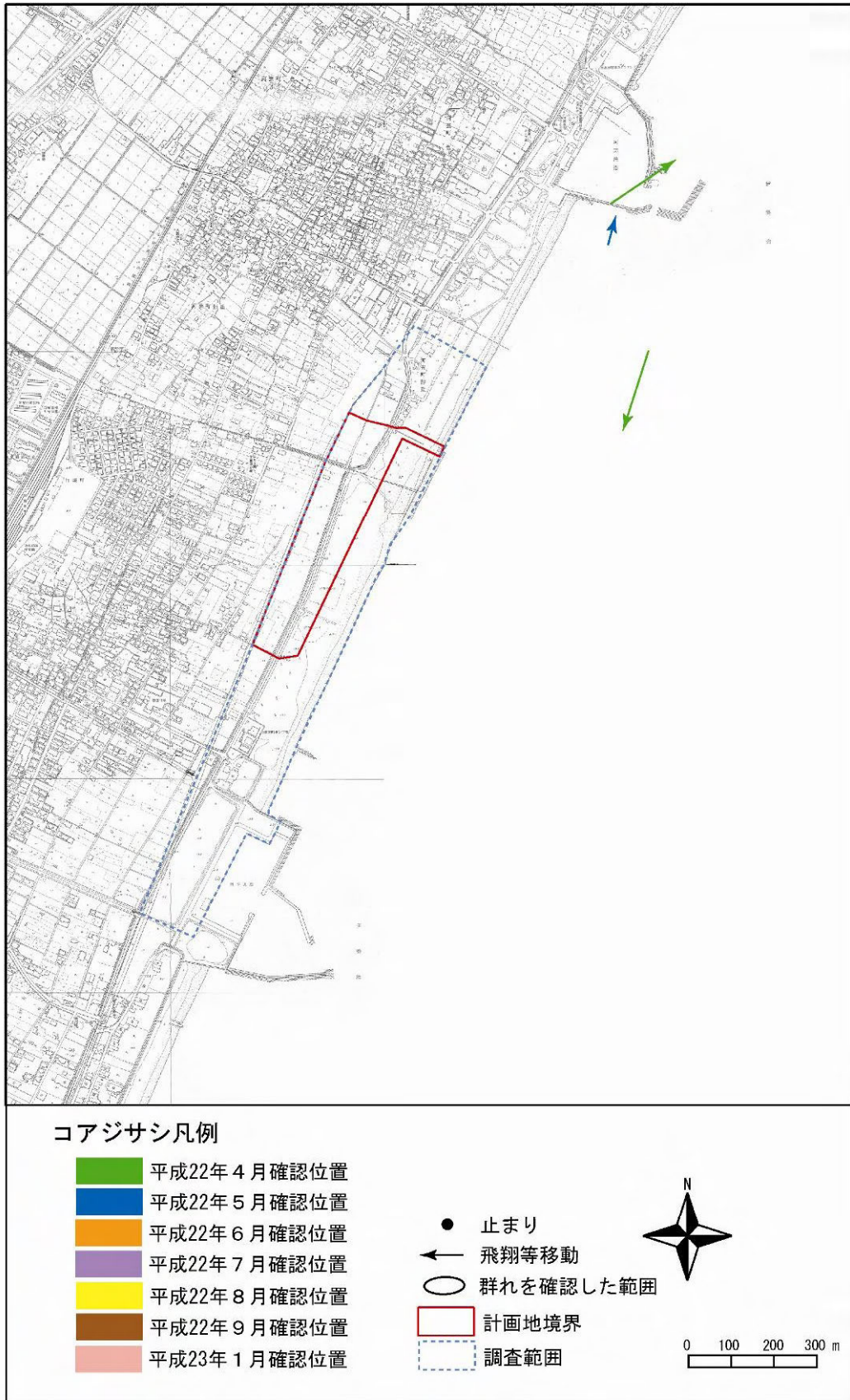


図3-19 コアジサシの確認位置

#### (4) ミユビシギ

ミユビシギの生態情報等を表 3-30に、確認位置を図 3-20に示す。

ミユビシギは4月28日に延べ54羽、5月18日に延べ16羽、1月11日に延べ20羽を確認した。海上を飛翔するものの他、砂浜の波打ち際近くで採餌または休息している個体が確認された。本種は当該地域を越冬地として、もしくは渡り途中の餌場や休息場として利用しているものと考えられる。

表3-30 特筆すべき種の生態および確認状況（ミユビシギ）

ミユビシギ	シギ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	NT	近畿 RDB	R2 通過
生態	日本には旅鳥として全土に現れ、8～10月と5月に見られる。本州以南では少数が越冬する。三重県内では、川越町、四日市市、津市、松坂市等で記録されている。海岸の波打ち際、広い砂浜、干潟、干拓地の水たまり等で見られる。波打ち際で採食する。波の動きに合わせてまるでチドリ類のように走り回り、慌てて隠れようとするハマトビムシ等をついばむ。								
確認状況	4月28日に延べ54羽、5月18日に延べ16羽、1月11日に延べ20羽を確認した。								
									
ミユビシギ									
平成22年5月18日撮影									

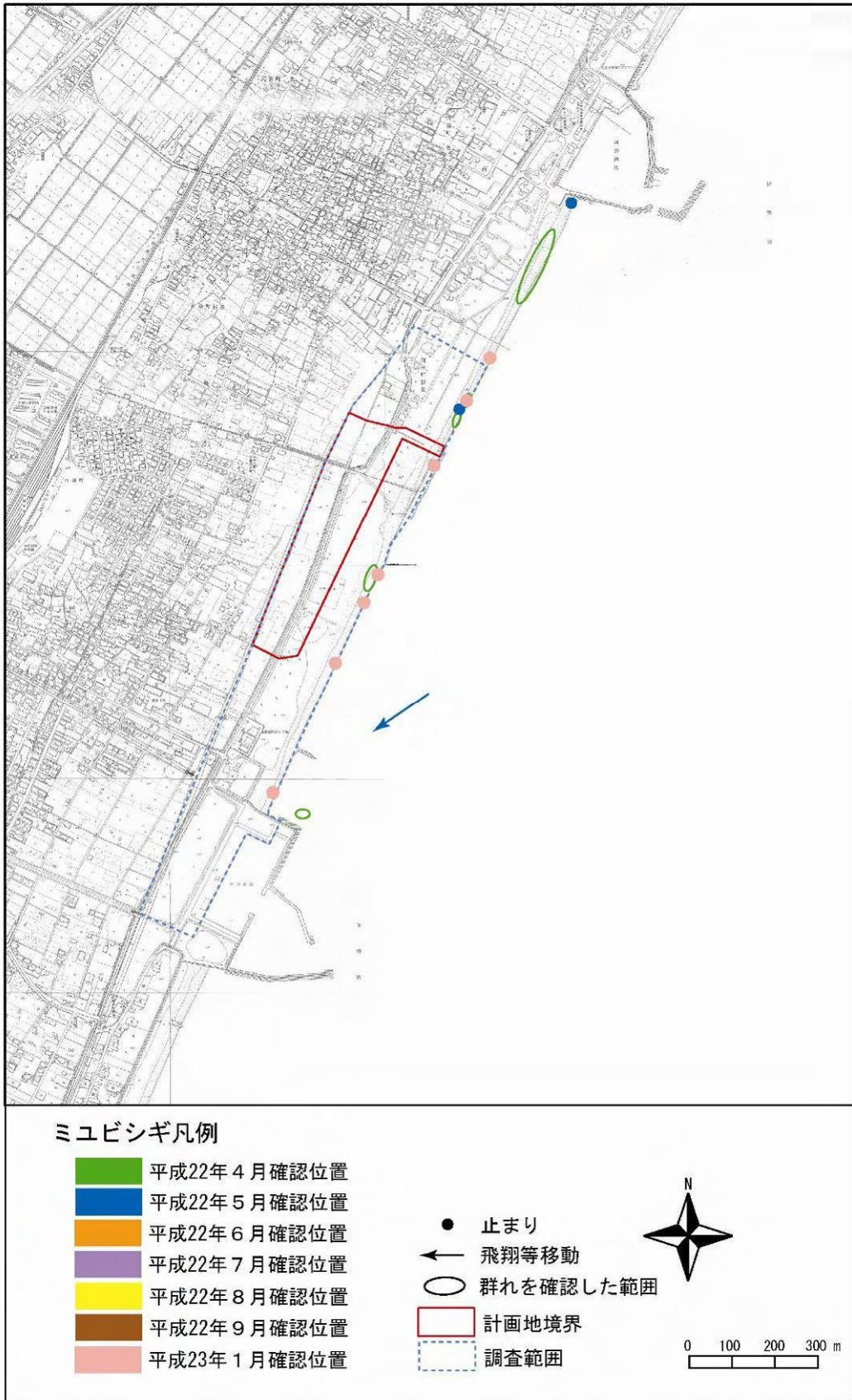


図3-20 ミユビシギの確認位置

(5) キアシシギ

キアシシギの生態情報等を表 3-31に、確認位置を図 3-21に示す。

キアシシギは8月3日に砂浜で採餌する1羽および白塚漁港の屋根にウミネコに混ざって休息している1羽を確認した。

繁殖行動は確認されておらず、調査範囲およびその周辺の海岸付近を採餌場所として利用しているものと考えられる。

表3-31 特筆すべき種の生態および確認状況（キアシシギ）

キアシシギ	シギ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として春と秋に全土に現れるが、九州および南西諸島では少数が越冬する。越冬地や渡り期には、海岸や河川の砂浜、干潟や砂礫地に現れる。浅く水につかる泥地や砂礫地の汀線で水中から甲虫や双翅類等の昆虫をついばむ。非繁殖期には小群で見られる。								
確認状況	8月3日に延べ2羽確認した。								



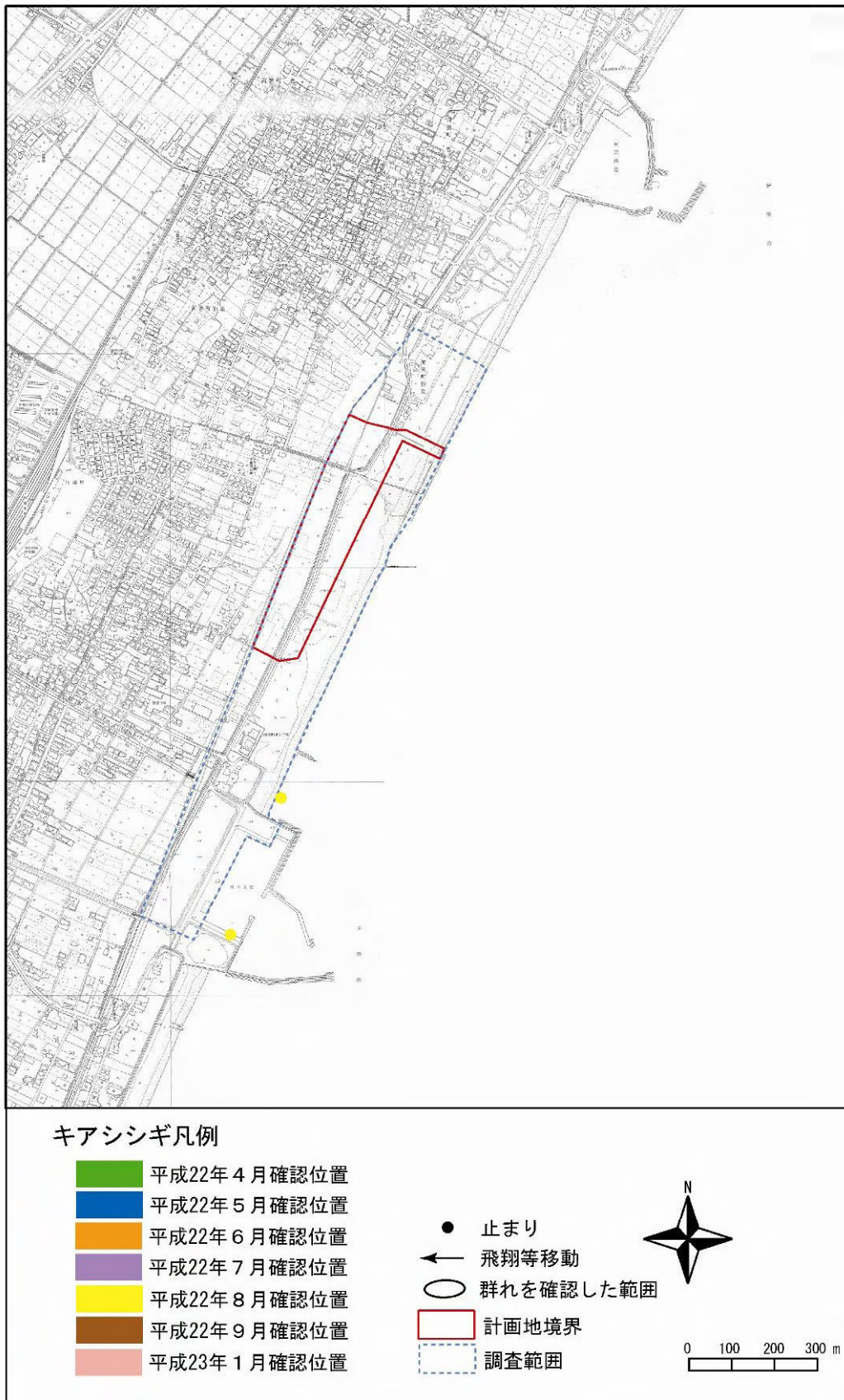


図3-21 キアシシギの確認位置

(6) イソシギ

イソシギの生態情報等を表 3-32に、確認位置を図 3-22に示す。

イソシギは8月3日に砂浜で採餌する1羽を確認した。

繁殖行動は確認されておらず、調査範囲およびその周辺の海岸付近を採餌場所として利用しているものと考えられる。

表3-32 特筆すべき種の生態および確認状況（イソシギ）

イソシギ	シギ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R2 繁殖
生態	国内では北海道、本州、四国、九州で繁殖する。北海道、本州北部の個体群は、冬季は南へ移動する。河原や湖岸などの裸地・草地の地上で営巣する。昆虫のほか、軟体動物、甲殻類、クモなども採食する。								
確認状況	8月3日に1羽を確認した。								

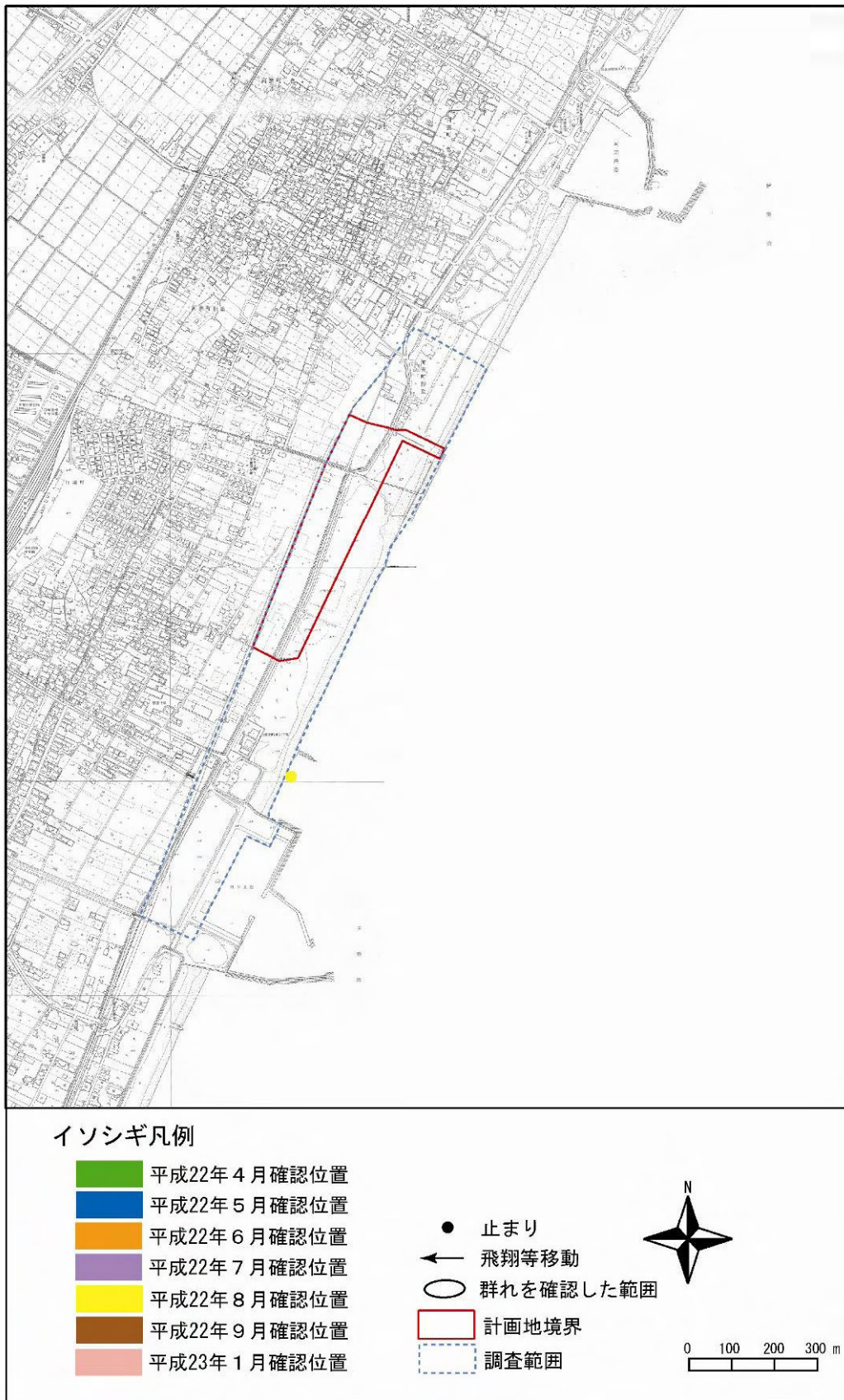


図3-22 イソシギの確認位置

(7) キョウジョシギ

キョウジョシギの生態情報等を表 3-33 に、確認位置を図 3-23 に示す。

キョウジョシギは 5 月 18 日に砂浜で採餌している 3 羽を確認した。

計画地周辺の砂浜などを休息場所や採餌場所として利用しているものと考えられる。

表3-33 特筆すべき種の生態および確認状況（キョウジョシギ）

キョウジョシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として全土に現れ、秋は 8～10 月、春は 4～6 月に見られる。渡り期や越冬地では海岸で見られ、まれに内陸の河川に現れる。海岸では砂浜や河口の砂泥地にも現れるが、岩石地や砂利地の海岸を最も好む。								
確認 状況	5 月 18 日に 3 羽を確認した。								
									
キョウジョシギ									
平成 22 年 5 月 18 日撮影									

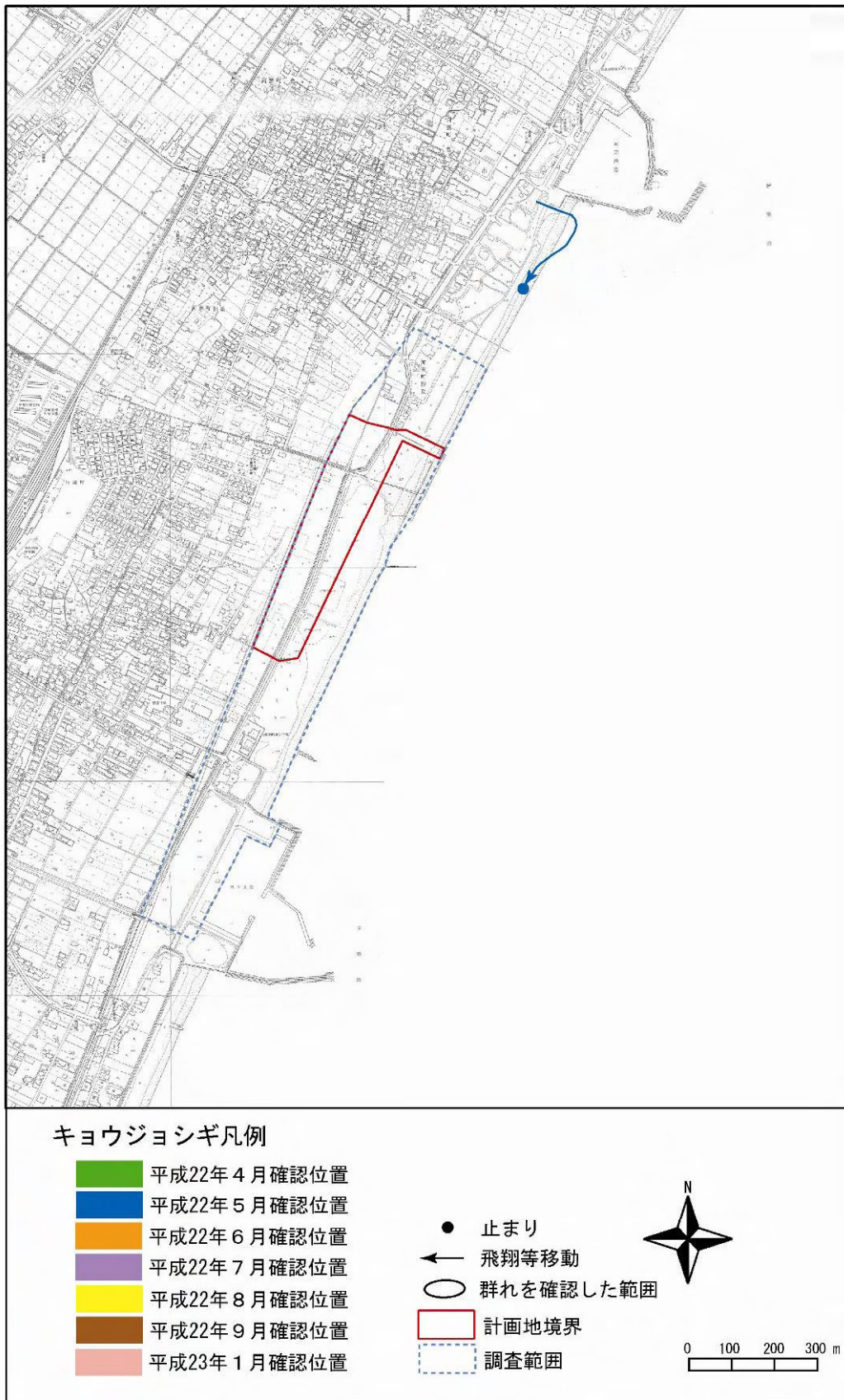


図3-23 キョウジョシギの確認位置

(8) トウネン

トウネンの生態情報等を表 3-34 に示す。

平成 22 年度の調査においてトウネンは、確認されなかった。

平成 21 年度には砂浜で休息している 1 羽が確認されている。

本種は繁殖地と越冬地を行き来する際に確認される旅鳥であり、前年度は渡り途中と考えられる個体が確認されている。渡りの時期は年によって前後したり、個体数は増減したりすることがあるため、年変動により確認されない年があると考えられる。

表3-34 特筆すべき種の生態および確認状況（トウネン）

トウネン	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として各地に多数が現れる小型のシギである。フィルム状に水につかる砂泥地の表面で採餌する。気ぜわしく歩き回り、細かくくちばしを使ってついばむ。ミミズ、ゴカイ類、甲殻類、昆虫、小貝、草の種子などを泥の表面からつまみとったり、軽く突き刺したり、いくらか探りを入れたりして捕らえる。								
確認 状況	本調査では確認されなかった。								

(9) ハマシギ

ハマシギの生態情報等を表 3-35に、確認位置を図 3-24に示す。

ハマシギは4月28日調査時に砂浜で採餌する76羽を確認した。

本種は当該地域を越冬地として、もしくは渡り途中の餌場や休息場として利用しているものと考えられる。

表3-35 特筆すべき種の生態および確認状況（ハマシギ）

ハマシギ	シギ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 越冬
生態	日本には旅鳥として8～10月頃と4～5月頃に現れ、渡来数も多い。また、北海道から南西諸島に至る各地の海岸や内陸の河川で少数が越冬する。砂泥地の薄くフィルム状に水につかるところを歩き回って、水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどの甲殻類を食べる。								
確認状況	4月28日に砂浜で採餌する76羽を確認した。								
 <p>ハマシギ</p>									
平成22年4月28日撮影									

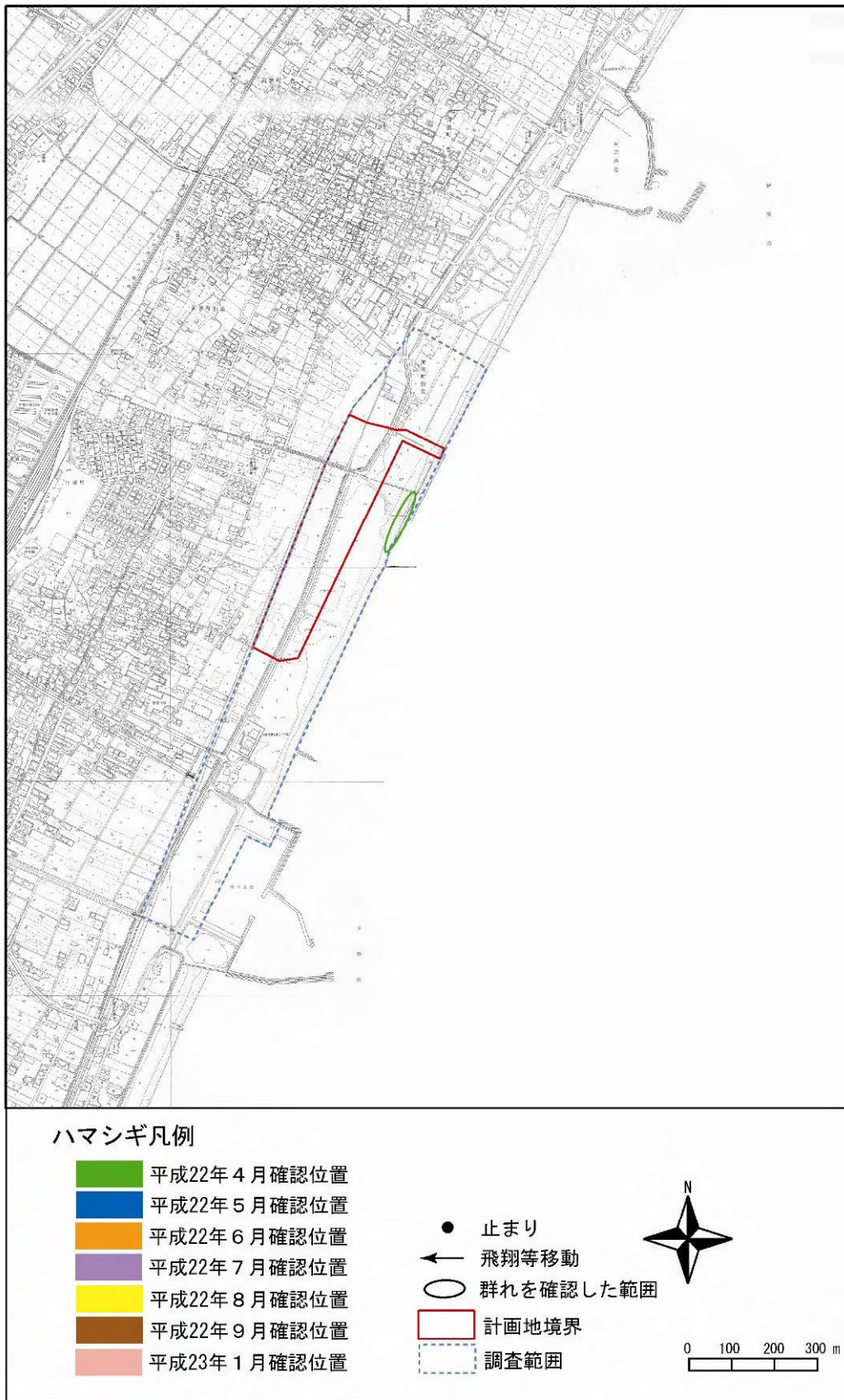


図3-24 ハマシギの確認位置



(10) チュウシャクシギ

チュウシャクシギの生態情報等を表 3-36に示す。

平成 22 年度の調査においてチュウシャクシギは、確認されなかった。

平成 21 年度には砂浜で採時する 3 羽が確認されている。

本種は繁殖地と越冬地を行き来する際に確認される旅鳥であり、前年度は渡り途中と考えられる個体が確認されている。渡りの時期は年によって前後したり、個体数は増減したりすることがあるため、年変動により確認されない年があると考えられる。

表3-36 特筆すべき種の生態および確認状況（チュウシャクシギ）

チュウシャクシギ	シギ科	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として 9～10 月頃と 4～5 月頃に現れる。海岸の干潟、砂浜の水たまり、マングローブ林のふち、河川の砂泥地、水田などでみられる。大きい体と下湾した長いくちばしを使って泥地を歩き、もっぱら泥の中に探りを入れ、こじるようにしてカニやカエルなどをほじり出す。カニを取り出すと、振り回して足をばらばらにして呑み込む。								
確認状況	本調査では確認されなかった。								

(11) オオヨシキリ

オオヨシキリの生態情報等を表 3-37に、確認位置を図 3-25に示す。

[ 1 ] 確認状況

【計画地および周辺のヨシ原】

オオヨシキリの繁殖に関わる行動が以下の通り確認された。

5月18日にはヨシ原や低木などでさえずりを4例確認した。

6月17日にはヨシ原や低木およびフェンス上・電線などでさえずりを7例確認した。

7月8日には飛翔5例、さえずりを4例確認した。飛翔の1例は巣材を運んでいるのを確認した。

8月3日にはさえずり等オオヨシキリの確認はできなかった。


以上の観察結果から、平成22年度は計画地およびその周辺のヨシ原で少なくとも1つがい営巣を試みたが、その後、巣を放棄したものと考えられる。

【河芸漁港の西側のヨシ原】

6月17日に1例のさえずりを確認したのみであり、4回の調査では繁殖に関わる行動は確認されなかった。

繁殖に関わる行動としてはさえずりが1例確認されただけであることから、平成22年度は繁殖が行われなかったものと考えられる。河芸漁港西側のヨシ原では宅地造成によりヨシ原が縮小していることから、繁殖地として選択されなかった可能性がある。

表3-37 特筆すべき種の生態および確認状況（オオヨシキリ）

オオヨシキリ	ウグイス科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	NT	近畿 RDB	R3 繁殖
生態	日本には夏鳥として4月下旬ころ北海道北・東部を除く全国に渡来する。8～9月には渡去し、東南アジアで越冬する。三重県では平野部を中心に各地に生息する。水辺のヨシ原に生息し、海岸や河口等の低地の湿原や、山地の湖岸や川岸の湿地でふつうに繁殖する。茎から茎へと移動しながら細くとがったくちばしで昆虫を捕らえる。繁殖期は5～8月、年に1～2回繁殖する。一夫多妻で繁殖し、ヨシの茎の間にイネ科植物の茎、枯葉等を使用してコップ状の巣を造る。雄は渡来するとヨシ原になわばりを構え、ヨシやヤナギの上部に止まってギョギョシ、ギョギョシと聞こえる特徴のある声で夜も昼もさえぎり続ける。								
確認 状況	計画地周辺のヨシ原において、5月18日に延べ4例のさえぎりを確認した。6月17日には延べ7例のさえぎりを確認した。7月8日には飛翔5例、さえぎりを4例確認し、飛翔の1例は巣材を運んでいるのを確認した。 河芸漁港西側のヨシ原では、6月17日に1例のさえぎりを確認した。								
		フェンス上でさえぎるオオヨシキリ							
平成 22 年 6 月 17 日 撮影									

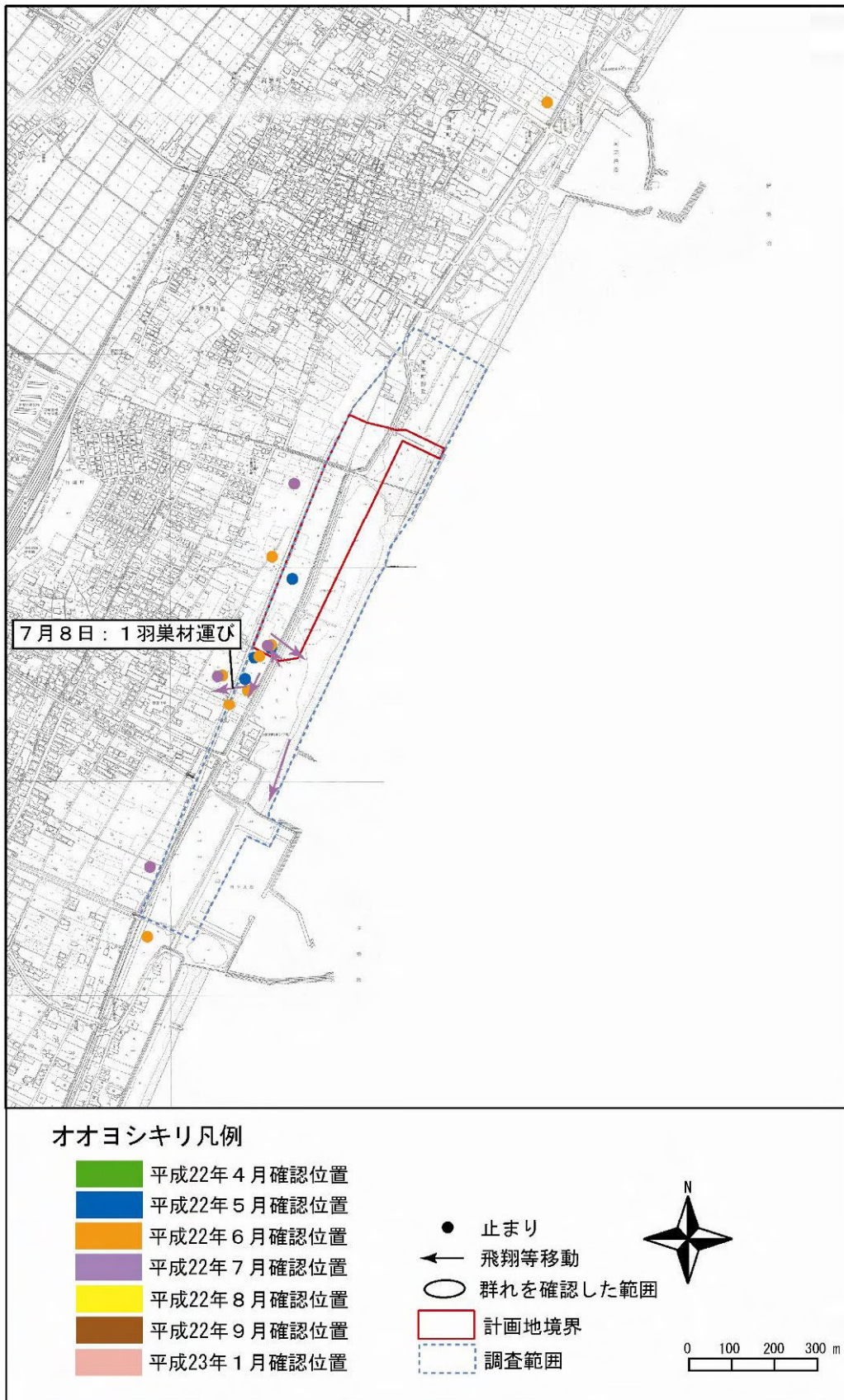


図3-25 オオヨシキリの確認位置

## [2] オオヨシキリの生息環境

オオヨシキリの営巣環境であるヨシ原について調査した結果を表 3-38に、既往調査結果との比較を表 3-39に、経年変化状況を図 3-26に示す。

図 3-27に示した計画地およびその周辺の B、H、J (ヨシ仮保全地) の 3 地区のヨシ原内の各調査地点で 1m×1m のコドラートを設置して、ヨシ原の生育状況を記録した。また、河芸漁港西側のヨシ原(I 地区)についても同様の調査を実施した。

### 【計画地および周辺のヨシ原】

B、J の 2 地区のヨシの生育本数は、1 m<sup>2</sup>あたりそれぞれ 47 本、64 本であった。また、計画地の南側に隣接する H 1 および H 2 地区では、1 m<sup>2</sup>あたりそれぞれ 52 本、62 本の生育が確認された。

計画地内では、広い面積を有する B 地区のヨシは、基本的に群落高が高く直径も太い。立地は微妙な起伏に富み水分条件も変化する。サデクサおよびクサヨシが多く、一部にセイタカアワダチソウやクズの侵入も認められる。

J 地区のヨシは、生育密度は高いが枯死割合は 49%と半数を占める。更に生育しているヨシ自体も白カビや穴の開いた個体、異状分岐した個体などが多く群落全体として健全な状態とはいえない。ここは、調査時に唯一冠水のあった場所であり、停滞した水と硫化水素臭のする底泥がヨシの地下茎を弱体化させていることが考えられる。

計画地南側に隣接する H 1 地区は、枯死割合が 73%と高いが、残存しているヨシ個体自体は健全である。ここは、ミゾソバ、クサヨシ、ガマなどの湿生種やセイタカアワダチソウ、ヘクソカズラ、ツルマメなどの草地生種など多様な種が生育している。

H 2 地区は、枯死割合が比較的低くヨシ個体自体も健全である。イ、クサヨシ、ヤマアワなどが混生している。

ヨシの生育密度の経年変化をみると、B、H 地区は、平成 18 年度から毎年増減はあるが、経年的には安定している傾向がある。

J 地区は、平成 20 年度の計測開始時から急激に減少している。ここは前述したように立地の悪化が主な原因と考えられる。

### 【河芸漁港西側のヨシ原】

河芸漁港西側のヨシ原 (I 地区) では 1 m<sup>2</sup>あたり 32 本の生育が認められた。

ヨシの生育密度の経年変化をみると、平成 21 年度まで穏やかな増加傾向が認められたが、今年度は、大きく減少している。枯死割合も高い。要因として考えられることは、隣接する宅地造成、周辺域からのセイタカアワダチソウやクズの侵入による乾燥化と被覆による衰退があげられる。

表3-38 ヨシの生育密度調査結果

地区	コードラート No.	群落高 cm	生育密度 本/m <sup>2</sup>	枯死密度 本/m <sup>2</sup>	枯死割合 %	平均高さ mm	土壌の 湿潤状況	備考
A地区	1	-	-	-	-	-	-	フェンス内、消失
B地区	2	3.10	47	14	23	7.10	過湿、表層水無し	セイタカアワダチソウ・クサヨシ・イ・サデクサ・クズなどが散在。
C地区	-	-	-	-	-	-	-	消失
D地区	-	-	-	-	-	-	-	消失
E地区	-	-	-	-	-	-	-	消失
F地区	-	-	-	-	-	-	-	消失
G地区	-	-	-	-	-	-	-	消失
J地区	7	2.50	64	62	49	4.90	過湿、冠水(10cm)	ヨシに白いカビや穴の開いたもの、分岐異状のものが多。
H1地区	4	2.50	52	142	73	4.14	過湿、表層水無し	ガマ・セイタカアワダチソウ・クサヨシ・ヤマアワ・ミゾソバ・セリ・ミゾソバ・ツルマメなどの多くの混生種が混生している。
H2地区	5	2.20	62	36	37	5.23	過湿、表層水無し	イ・クサヨシ・ヤマアワなどが散在。
I地区	6	1.95	32	154	83	4.72	過湿、表層水無し	セイタカアワダチソウ・イ・ヤナギタデなどが散在。

注：黄色い網掛けは計画地内のヨシ原。  
H地区は2エリアに別れ生育状況等が異なるため、H1・H2として別々に扱った。

表3-39 ヨシの生育密度 経年変化

地区	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
A地区		96	84	28	238	74	消失
B地区		142	77	23	20	69	47
C地区		166	158	26	消失	-	-
D地区	206	未実施	消失	-	-	-	-
E地区		45	45	消失	-	-	-
F地区		85	81	消失	-	-	-
G地区		128	消失	-	-	-	-
H1地区		69	42	32	45	65	52
H2地区		69	105	30	89	70	62
I地区		未実施	98	89	122	143	32
J地区					201	157	64

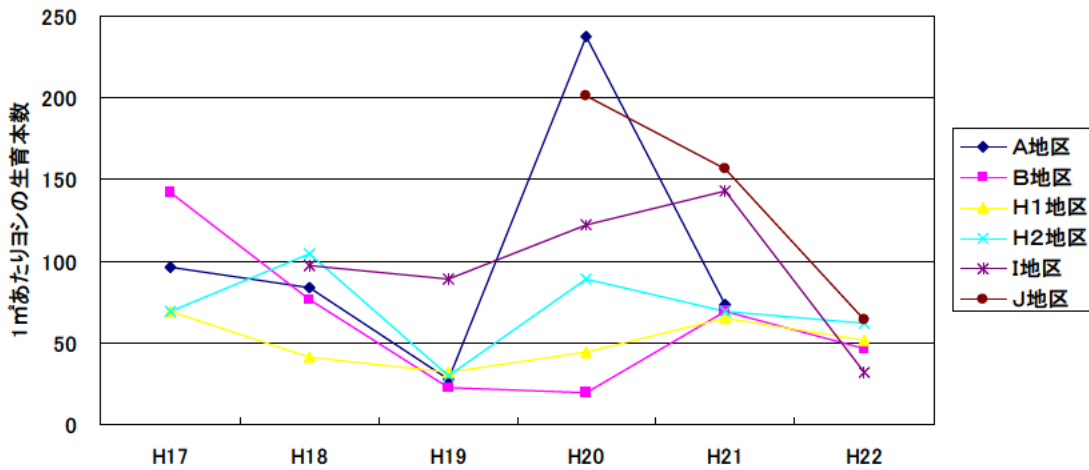


図3-26 ヨシ生育密度の推移



図3-27 ヨシ原の位置と生育状況調査位置